

秋吉台

— 美祢市自然保護協会だより —

広報 第 5 号

発行日：2013 年 3 月 1 日
発行者：美祢市自然保護協会
美祢市秋吉台管理事務所内
TEL:0837-62-0640

秋吉台憲章

- 秋吉台の自然を学び、親しみ、豊かな恵みに感謝しよう。
- 秋吉台の自然を大切に守り、豊かな文化を育もう。
- 秋吉台の自然を正しく利用し、人との共生をはかろう。
- 秋吉台の自然を守るために、一人ひとりが積極的に行動しよう。
- 秋吉台の自然、景観、歴史・文化を後世に末永く継承しよう。

秋吉台に花



秋芳町自然保護協会三〇周年式典の思い出

秋芳町自然保護協会は日本でも他に類例のない自然保護団体である。この協会は市民全員の力で秋吉台を保全するという壮大な計画のもとに、昭和 44 年 7 月 15 日にスタートした。秋吉台を正しく保全するには行政機関の秋吉台管理事務所と秋芳町自然保護協会がそれぞれ車の両輪のように働き、保全活動を進める必要があったからである。

私が自然保護協会に深く関わったのは、平成 10 年ごろ秋芳町自然保護協会が創立 30 周年を迎える時期だった。川村清吾会長さんは、30 年にわたる活動を総括し、将来へ歩むべき方針を確立するために、記念式典の開催を決められた。

理事さんは東奔西走され、多額の寄付金を集められた。記念事業では、

- 1) 記念誌の出版、
 - 2) 記念式典の開催、
 - 3) 記念講演の実施、
 - 4) 秋吉台憲章を制定すること
- が決められた。記念誌の出版では、事務局職員が中心になり、30 年間に実施された事業を調べ上げた。この頃

会員は増え続けており、1,400 人を越えていた。事業では、秋吉台に広がったセイタカアワダチソウ撲滅運動、松食虫防除運動、オオウラギンヒョウモンの保護などで苦闘したことを思い出す。そして未来に向かって進むべき方向を示すため、役員の方や町の有識者にお集まり頂き、座談会が開かれた。記念講演は、当時自然保護の分野で常に新鮮な発言を続けておられていた作家立松和平さんに決められた。

記念式典は、平成 11 年 7 月 15 日に秋芳町町民体育館で行われ、盛会だった。あれからもう 14 年が経ち、市町合併により自然保護協会は美祢市自然保護協会になり、内容も時代の流れに従って大きく変わった。しかし、私たちが健康で、豊かな暮らしを続けるためには秋吉台の自然保全がどうしても必要である。美祢市自然保護協会が活発に活動を続けられることを心から期待している。

秋吉台科学博物館 名誉館長
農学博士 庫本 正

秋吉台草原の維持と保全

秋吉台の草原は、昔から家畜の飼料や田畑の肥料として広く利用されてきましたが、化学肥料の普及や家畜飼料も輸入にたよる現在では、殆ど利用されていません。草原の周辺部では、スギやヒノキ等の植林化が進み、草原面積も昭和 20 年代と比べ現在では半分以下に減少していることが報告されています。草原の周辺部では、地形の複雑さ、ハチク等の進入やササの大型化による火道切りの困難性により、年毎に草原の減少が続いています。

山焼きを行うことにより秋吉台の草原の維持はされていますが、ドリーネの周りや草原の北部地域では燃え残りも多く、そのような場所ではササ等の草丈が高くなり、火入れが益々難しくなっているため樹木が生え、草原のあちらこちらで樹林化が進んでいます。

平成 21 年に草原全域の樹林について調査を行い 407 箇所の樹林を確認しています。一部の樹林については県

が伐採を行いました。まだ多くの樹林が残っています。これらの樹林の広がりを抑制するためにも、山焼きで燃え残りを出さないようにしなければ、草原の維持は難しいと思っています。

秋吉台草原には自然を求めて多くの観光客が訪れていますが、遊歩道以外を団体で歩くため、踏圧による道が随所に出て、裸地化した所が多く見受けられ、今後、浸食する箇所が増える可能性があります。草原の一部には各所を巡る遊歩道がありませんので草原を保全するための遊歩道の新設も必要です。現在ある遊歩道についても、遊歩道を歩けば草原の植物の殆どを観察することが出来るよう環境整備を行うことが必要です。遊歩道沿いの草刈りを適正に行うことにより、草原の植物の 80% 以上を観察することが可能であり、それと共に草原の植物の 1 割近くが絶滅危惧種である秋吉台草原を守ることにもなります。

秋吉台草原ふれあいプロジェクト
代表 松井 茂生

— 平成 24 年度 後半の活動から —

会員研修 島原半島 平成 24 年 10 月 14 日 (日)

ガマダス島原「島原半島ジオパーク研修」

〈平成 24 年 10 月 14 日 (日) 会員 43 名参加〉

半島にある火山群の総称が雲仙岳です。この岳のほぼ中央に聳えるのが、標高 1486m の平成新山です。

この新山は、1990 年 (平成 2 年) ~ 1995 年 (平成 7 年) まで、約 6 年間噴火活動が断続的に続きました。この噴火は、火砕流現象を引き起こし、特に島原市・深江町に甚大な被害をもたらしました。

雲仙岳は、記録に残るだけでも、1663 年 (寛文 3 年) の噴火をはじめ 1990 年 (平成 2 年) の噴火まで、大き

な活動を数回くり返し、地元には大きな災害をもたらしました。

にもかかわらず、地元の人々は、島原の復興に取り組み、2009 年 (平成 21 年) には、地球科学的特徴が認められ、世界ジオパークに認定されました。この度研修で多くのことを学びました。

※ガマダス 島原地方の方言「がんばれ」

理事 金石 弘士



役員研修 萩方面 平成 24 年 11 月 19 日 (月)

11 月 19 日午前 9 時 秋吉公民館を出発、参加者 16 名。三隅から萩へ、10 時前に萩博物館着。萩博物館の清水学芸員さんから萩に藩府が置かれた理由とか、当時の萩の街の仕組みなどについて説明がありました。

その後、館内を見学し、昼食は館内のレストランで、萩沖の魚を使った三旬丼を食べました。

午後は、松陰神社に参拝し、宝物殿至誠館を見学。館内には、コンピューターによる展示コーナーもあり、松陰先生の著書や手紙を読むことができるようになっています。

次に、笠山に行く予定でしたが、道路工事のため通

行できず、途中の店に立ち寄り時間調整。

明治維新胎動の地萩は毛利三十六万石の城下町として、数多くの史跡が保存されています。まち全体が歴史博物館のようです。

午後 4 時過ぎ秋吉公民館へ帰着。好天に恵まれ、ゆったりとした研修でした。

理事 井上 行敏



■ 秋吉台の短歌・俳句 ■

秋吉短歌会

湯治客の少なきこと嘆くなる
おかみ残して帰り来にけり
八十を過ぎて生くるはせんせい
おかげと言ひて診てもらい居り

岩永 松原 正男

年賀状受けて心の糸つなぐ

秋吉 秋山安佐子

ホトトギス秋吉句会
大根のせり上りつつ太りをり

共和 上利 活枝

— <自然保護啓発> —

書道コンクール・絵画コンクール金賞受賞作品



書道の部：

左 嘉万小
二年 寺田心菜美
右 別府小
六年 杉山 諤京

絵画の部：

左 別府小
四年 阿座上愛美
右 大田小
二年 徳重日陽里



平成 25 年度
会員募集

年会費 個人 一口 300 円

皆で美祿市の自然を守りましょう。

お申し込みは秋吉台科学博物館内

TEL(0837)62-0640 まで